



学校創立142周年

百年松

阿木名小中学校便り 令和4年1月14日発行

◇校訓「かしこく やさしく たくましく」
あ 明るく元気なあいさつができる子ども
ぎ ぎりぎりまであきらめず努力する子ども
な 仲よく笑顔いっぱいの子ども
～花いっぱい、元気いっぱい、笑顔あふれる阿木名っ子～



あけましておめでとうございます！

校長 井上 泉



お正月をどのように過ごしましたか。楽しいお正月、気持ちの引き締まる新年を迎えたことでしょう。令和4年も一生懸命頑張りましょう。

皆様、本年もよろしくお祈りします。

春の花の代表格、桜の花。ここ奄美では緋寒桜が咲きますね。2月頃には開花し始めるのではと思います。実は桜は花を咲かせるために、2月から3月の間に寒い時期を迎えないときれいな色が出せないのだそうです。春の暖かい日が続く中で、一時的に寒さがぶり返すことを「寒の戻り」といいます。立春の2月4日から4月にかけてのことをいいます。

さて、桜の花のつぼみは前年の夏にできます。今年に咲く桜の花は、令和3年の夏にできていることとなります。秋になると葉が落ち、つぼみは眠りに入ります。眠っている時は成長しないそうです。季節が移り、凍えるような真冬の寒さが訪れるとつぼみは眠りから目を覚まします。これを「休眠打破」と言います。目覚めた後は、少しずつ成長し、あたたかさを感じて開花します。さらに、春になって桜のつぼみが開花するためには、その前に一定期間「寒さ」にさらされる必要があります。先ほど話した「寒の戻り」です。しかし、最近では暖冬の影響で「休眠打破」がうまくいかず、満開になるまで日数がかかったり、満開になる前に葉桜になってしまうというような現象も起きているそうです。

暖かいだけでは咲くはずの花も咲かないということです。子どもたちの成長にも、同じことが言えると思います。子どもたちはそれぞれにつぼみをもっています。そのつぼみを将来咲かせるためには、困難なこと、大変なこと、苦しいこと、辛いことに出会い、それを乗り越える経験が必要ということです。桜の開花に寒い冬が必要なように、子どもたちの成長にも困難や試練が必要です。その困難や試練を乗り越えようと懸命に努力する子どもたちの姿と、その姿を

見守る周りの大人の温かいまなざしがあってこそ、子どもたちは満開の花を咲かせることができると思います。節目節目で、満開の桜の花が咲くように、子どもたちそれぞれが「休眠打破」ができるように、私たち大人は精一杯支援したいものです。

令和4年も、職員一同一生懸命頑張ります。今後とも阿木名校へのご支援・ご協力をよろしくお祈り致します。

